

プロ野球セントラルリーグにおけるユニホームの変遷 ～ユニホームのデザインに着目して～

高橋 慧 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 新井 博

キーワード：ユニホーム、デザイン、プロ野球の歴史

1. 緒言

近年、日本プロ野球界では復刻ユニホームブームが起きている。セントラルリーグでは昨年「オールドユニホームシリーズ2010」と呼ばれるイベントが開催された。実際復刻したユニホームを見ていると現在と大きく変化のないものや、デザインが大きく変化しているものなど様々であり、デザインが今までどのように変化していったのかを知りたいと感じた。本研究は、戦後、日本プロ野球が再開された1946年から1980年代までのセントラルリーグの各チームのユニホーム(特にデザイン)に焦点を当てて研究を行う。

2. 研究方法

資料を参考にして研究を進める。資料としては東京ドーム内にある野球体育博物館の貯蔵品や、博物館の中にある図書室の貯蔵書、本大学や地域図書館の貯蔵書を使用。

3. 結果と考察

戦後から1980年代まではユニホームのデザインの変化よりもユニホームの形の微妙な変化が目立つ。戦後は、だぼっとした様なシルエットのユニホームにニッカポッカのようなパンツであったが、年代に近づくにつれてスマートなユニホームになり、現在のユニホームにだんだん近づいた形になっていく。

そのことから、戦後(1946年)～1980年代までは日本プロ野球界において、ユニホームの大きな変化の時期であったと言えるであろう。

4. まとめ

ユニホームはデザインも大切であるが、やはり一番大切なのは選手がプレイをしていかに動きやすいか、いかにプレイに支障を来さないかということだ。実際、ユニホームの色やロゴ、形は時代とともに変化しているが、ユニホームの原型つまり「上下に分かれていて上は半袖、下は長いパンツ」という基本的なスタイルは変わらない。このスタイルが一番、野球に適しているからこそデザインの変化や多少のスタイルの変化があっても、ユニホームの形そのものは大きく変わらない。

今後もプロ野球、そしてユニホームが発展していても「半袖に長いパンツ」というユニホームの原点から離れることはないであろう。

参考文献

- (1)池田哲夫(2004)プロ野球70年史～歴史編～(株)ベースボールマガジン社 p.19.115.460.461.
- (2)池田哲夫(2009)「週間ベースボール50years II」(株)ベースボールマガジン社 pp.74-85.